

令和6年度第4回宗像市スポーツ推進審議会 議事録（要旨）

日 時	令和7年2月20日（木）18:25～20:30				
会 場	宗像市役所 201会議室				
出席者	委 員	■石松	■市丸	■大賀	■釜瀬 ■河野
		■末永	■西村	■野口	□村山（欠席）
	事務局	■大塚	■上田	■吉丸	■松水 ■福本

【開会】

大塚課長： 定刻となったので、令和6年度第4回宗像市スポーツ推進審議会を開会する。

この審議会は、宗像市スポーツ推進審議会条例第6条第2号の規定により、委員の半数以上の出席が成立条件となっている。村山委員については欠席の連絡があった。現時点で委員総数9人のうち、8人の委員に出席いただいているため、本日の審議会が成立することを報告する。

議事に入る前に資料の確認をする。

（資料の確認）

これからの進行を市丸会長にお願いする。

1 開会あいさつ

市丸会長あいさつ

2 議事録（議事要旨）署名委員の指名について

市丸会長： 議事録署名委員の選出について、今回の議事録署名委員を2人お願いする。名簿順に指名する。前回は、野口委員と村山委員にお引き受けいただいたので、今回は、石松委員と河野委員にお引き受けいただきたいと思う。

（両委員が承認）

3 報告事項

（1）第3期宗像市スポーツ推進計画（案）パブリック・コメントの結果について

市丸会長： 続いて、報告事項に移る。「（1）第3期宗像市スポーツ推進計画（案）パブリック・コメントの結果について」事務局より説明をお願いする。

福本： 資料1をご覧ください。計画の策定にあたり令和6年12月3日から令和7年1月16日の期間でパブリック・コメントを実施した結果、1人から3件の意見をいただいたため、その意見と回答の内容について報告する。

いただいた意見は「e スポーツの活用」「スポーツ施設の整備」「スポーツ施設へのアクセス」に関するもので、主な内容は『本計画で「具体的な施策」や「目標値」を示してはどうか?』というものであった。

1 件目の「e スポーツの活用」については、現状、e スポーツに関する知識や経験の積み上げが十分でないため、本計画期間では e スポーツを市民の健康づくりや生きがいづくり等にどのように活用できるか研究に取り組むこととしている。具体的な目標値については、この研究の結果を基に次の計画の中で検討することから原案どおりとした。

2 件目の「スポーツ施設の整備」については、本市のスポーツ施設が老朽化している中、物価の上昇、将来人口の減少などの社会環境に取り巻かれている。このような中、スポーツ施設については充実、コストについては削減できればと考えており、今年度、スポーツ施設の利用実態や将来需要、最適規模を明らかにするための調査を行った。この調査結果を基に来年度以降に別途、スポーツ施設に関する方針を決定する予定で、具体的な目標値については、その方針の中で検討する予定であるため、こちらも原案どおりとした。

3 件目の「スポーツ施設へのアクセス」については、市民アンケートの結果、整備面に関して、身近に気軽にスポーツを行える環境づくりも重要と考えている。2 件目の説明のとおり、来年度以降に別途スポーツ施設に関する方針を決定する予定であるため、この方針を基に市民が身近に気軽にスポーツを行える環境づくりについて研究に取り組んでいく。具体的な目標値については、この研究の結果を基に必要に応じて関係部署と連携して次の計画等の中で検討するため、原案どおりとした。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

大賀委員： e スポーツについて、施策目標にある「スポーツを始めるきっかけとして e スポーツの普及について研究している」という文言の表現は誤解されやすいと感じる。パブリック・コメントの回答では e スポーツはスポーツに含まれると回答しているが、この表現だと e スポーツはスポーツに含まれないと捉えられかねない。「e スポーツの効用と普及について研究する」などの表現がふさわしいのではないか。

最近では e スポーツの研究が増えてきており、e スポーツがもたらす効果が明らかになってきている。そのような先行研究も参考にしながら研究に取り組み、e スポーツを取り入れた事業を展開していけばよいと思っている。個人的には部活動地域移行のクラブにも e スポーツを取り入れていいと考えている。実際に高校では e スポーツのクラブを創っているところも多くある。

このように e スポーツをスポーツのひとつと捉えるのであれば、「きっかけとして」というような表現は違うのではないかと思う。

市丸会長： 今からでも文言の修正はできるのか。

上田係長： 庁議への報告も終わっており文言の修正はできない。

市丸会長： その他に質問等はないか。

（質問等なし）

（２）第３期宗像市スポーツ推進計画（案）の答申について

市丸会長： 続いて、「（２）第３期宗像市スポーツ推進計画（案）の答申について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料２をご覧いただきたい。３月１１日に会長と副会長にご出席いただき、教育長に対して答申いただく予定となっている。その際の答申の内容を事前に委員の皆様にご確認いただきたく、これから答申書を読み上げさせていただく。

（資料２を読み上げる）

以上の内容で、会長より答申いただく予定である。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

（質問等なし）

４ 協議事項

（１）第２期宗像市スポーツ推進計画の進捗状況について

市丸会長： 続いて、協議事項に移る。「（１）第２期宗像市スポーツ推進計画の進捗状況について」事務局より説明をお願いします。

上田係長： 資料３をご覧いただきたい。令和６年度の実績について抜粋して説明する。

【１ スポーツ・運動を通した市民健康活動の推進】

（１）市民エンジョイ・ウォーキング事業

① ウォーキングの普及、推進：日頃の成果の発表の場として、参加者の体力に応じてコースを設定できる「弥生ウォーキング」を３月９日に開催。② 市民ウォーキング大会等の情報提供やコース整備の検討：市広報紙やインターネットを活用して情報発信を行った。

（２）大学、企業、地域等との連携による市民の健康活動の促進

エイコーウェルやスポーツ推進委員と連携して弥生ウォーキングを実施。１１月２４日には岬地区コミュニティと連携してスロージョギング教室を実施した。

（３）市全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの設立・運営

3月号の市広報紙にて南の郷クラブの定期教室の案内を行った。

【2 スポーツ・運動を通じたコミュニティ活動の活発化】

(2) コミュニティ・スポーツ交流事業のサポート

スポーツ推進委員と連携して、市のニュースポーツ備品の貸出などを通じて各地区コミュニティのスポーツを通じた交流事業に対して支援を行った。指導を行ったスポーツ推進委員の延べ人数は12月末時点で217人である。

【3 子どものスポーツ機会の充実】

(1) スマイルキッズプログラム

①幼児期を対象とした支援：アクアドームにて、未就学児とその親を対象にした親子プール教室を開催し、一定期間参加した子ども達を民間プールに繋げた。また、サニックススポーツ振興財団と連携して、幼児を対象にしたタグラグビー訪問教室を開催した。②小学生の体力向上支援：小学5年生を対象に、勝浦浜海洋スポーツセンターにて海洋性スポーツ体験授業を実施した。また、小学校の新体力テストに16日間で延べ94人のスポーツ推進委員を派遣した。さらに、小学生女子ラグビー教室やサニックススポーツ振興財団等との連携による小学4年生を対象としたタグラグビー教室を実施した。③中学校運動部活動の支援：国の実証事業を活用し、野球2クラブ、バスケットボール2クラブ、バレーボール1クラブ、の計5クラブの受皿クラブに対して運営の支援を行った。また、中学校部活動休養日に中学校運動部活動全10種目のアカデミー教室「むなかたアカデミッククラブ」を開催した。④社会体育等における活動の支援：小中学生を対象に中学運動部活動10種目にバドミントンを加えた種目でスポーツ大会・教室を20回開催した。また、全国大会規模以上のスポーツ大会に出場した市民に参加費用の補助を行った。

(2) スポーツ指導者体制の整備

①スポーツ指導者の育成及び活動支援：むなかたアカデミッククラブの指導者を対象に指導者講習会、熱中症対策セミナーを実施した。

【4 ライフステージに応じたスポーツ・運動活動の推進】

(1) スポーツ未実施者等のライフステージに応じたスポーツ・運動プログラムの開発・実施

②20代、30代が参加できるスポーツ・運動プログラム：子ども家庭センターと連携し、乳幼児とその保護者を対象とした親子運動教室を実施した。また、「小中学生スポーツ事業」として、小学生やその保護者を対象に親子走り方教室やライフキネティック教室を行った。

(2) コミュニティにおけるスポーツ・運動活動、健康づくりの支援

南の郷クラブにおいて、老若男女問わずスポーツや運動、交流を楽しんでもらえるよう、世代に合わせた教室を開催した。また、各地区コミュニティの運動や健康づくりの事業等において、スポーツ推進委員を派遣した。延べ派遣スポーツ推進委員数は217人、延べ参加者数は1,078人である。

(3) 障がい者のスポーツ・運動活動の支援

①障がい者スポーツに触れる機会の提供：アクアドームで、障がい者を対象とした水泳教室を

実施した。また、日本パラバドミントン連盟と連携し、玄海東小学校にてパラバドミントン教室を実施した。②障がい者スポーツ等の情報の提供：福岡市障がい者スポーツ協会と連携し、障がい者ボウリング大会等の案内を行った。

【5 宗像市スポーツサポートセンターを活用し、住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備】

（１） スポーツ資産の有効活用

②宗像市スポーツサポートセンターの機能の充実：中学校部活動の地域移行における受皿づくりや休日の部活動に代わる教室を開催するなど、子どものスポーツ環境充実に向け、コーディネーターとしての役割を果たした。また、地域のウォーキングや健康教室に出向きインボディ測定を行い、自身の体の状況を見える化し、参加者の運動意欲の促進、運動のきっかけづくり等を提供した。④スポーツ推進委員との連携強化：各地区コミュニティに原則２名を配置しており、そのスポーツ推進委員が安心してボランティア活動に取り組めるよう定例会議を毎月開催した。

（２） トップスポーツ試合の地元観戦機会の提供（観る）

アビスパ福岡の公式戦の１試合を「宗像市応援デー」と題し、宗像市民の無料招待を行った。招待者数は小中高生 265 人。また、試合開始前のイベント、試合中のボールパーソンを市内サッカーチームへ依頼し実施した。

（３） スポーツボランティアの活用・充実（支える）

10 月 20 日に開催されたプリンセス駅伝において、市民や市内大学、トヨタ自動車九州等の計 407 人がボランティアで大会運営のサポートを行っていただいた。

（４） トップアスリートとの交流事業の実施（交わる）

小中学生スポーツ教室においてトップアスリート、プロスポーツ選手による教室の実施やグローバルアリーナで合宿を行った「マツダスカイアクティブズ広島」と市民との交流事業を実施した。また、プリンセス駅伝に出場した選手による陸上教室を市内小学校 2 校で実施した。さらに、「第 10 回プリンセス駅伝」と「芝生広場外周路コース誕生」を記念して、陸上長距離界のレジェンドが宗像ユリックスでランニング教室を開催した。

【6 スポーツ観光による地域経済活性化】

（１） 全国・九州レベルのスポーツ大会の誘致・開催支援

ワールドユースラグビー大会や新体操サニックスカップ等の全国レベルのスポーツ大会の誘致支援を行った。

（２） スポーツ合宿の誘致活動の支援

②「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」のキャンプ地受入：カザンラック民族舞踊団との交流を行った。

（３） 宿泊や市内周遊につながるスポーツ大会の開催・支援

小学 3、4 年生を対象とした「むなかたキッズセブンラグビー大会」を 12 月に開催し、市内宿泊者数は約 1,000 人であった。また、スポーツ観光による地域経済活性化を図るため、市内で

行われる宿泊を伴うスポーツ大会の開催に要する経費の助成を行った。

【7 スポーツ活動の場の確保】

(1) 既存の3つの市営体育館施設の運営

施設の修繕は、包括管理センターと連携して行った。令和5年度の利用者数実績については、市民体育館は137,529人、玄海B&Gは約20,000人、勤労者体育センターは約16,000人である。修繕状況については、2階のトイレ等老朽化しているところを中心に対応した。

(2) 学校開放施設の運営

令和5年度の利用実績について、利用団体は約10,000団体、利用人数は約234,000人となっている。

【8 中核拠点となる施設の再構築と整備】

(1) 体育館施設の整備

市民体育館キュービクル設備について、老朽化により火災等の危険があったため、改修工事のための実施設計を開始した。また、市民体育館、勤労者体育センター、玄海B&G海洋センターの駐車場の障がい者マークや区画線の改修工事を行った。さらに、弓道場外部通路において、屋根等が老朽化により崩落の危険があったため、この安全対策工事を行った。それから、市民体育館やアクアドーム等のスポーツ施設の老朽化が進行している状況のなか、スポーツ施策の充実やコスト削減を検討するため、スポーツ施設の利用状況等の把握を行った。

(2) 屋外スポーツ関連施設の整備

ふれあいの森総合公園において、遊歩道の法面に亀裂が入り、崩壊している状況であったため、その修繕を行った。明天寺公園野球場において、老朽化し危険な状況であったダッグアウトやバックネット、内野フェンス等の改修工事を行った。

(4) 宗像ユリックスのスポーツ施設

宗像ユリックスの芝生広場外周路のランニングコースをリニューアルした。弾力性のある足腰に優しい「ウレタン舗装」を施工し、1周約850メートルでスタート地点から200メートルごとに距離を表示している。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

市丸会長： 令和5年度以前の欄について、幅が小さく、記載内容が途中で切れている欄がいくつかある。

福本： お詫び申し上げ、HP公表の際には修正したものを掲載する。

市丸会長： 誤字が1か所ある。6つ目の柱の中で、「福岡教育大学」の表記が「福岡教師区大学」となっている。

上田係長： お詫び申し上げます。

その他に質問等はないか。

(質問等なし)

(2) 令和7年度の事業計画について

市丸会長： 続いて、「(2) 令和7年度の事業計画について」事務局より説明をお願いします。

上田係長： まず全体的な方針の話として、来年度が第3期計画の1年目の年になる。そのため、いきなり事業を実施するというよりも事業実施に向けた関係者との協議の時間に充て、方針や予算、役割分担等を整理したうえで取り組んでいきたいと考えている。

【基本方針】 スポーツで市民の心と身体の健康づくり】

施策目標① 自分の健康状態に適したスポーツに取り組める(◆)

「スポーツを行っている者の増加」を目標としており、日頃の成果の発表の場となるウォーキング大会の実施と、健康課等との連携による各地区への出張教室等の計画に取り組んでいく。

施策目標② 市民が地区ごとに自宅から歩けるウォーキングコースを知っている(◆)

「ウォーキングコースを知っている者の増加」を目標としており、取り組みとしては、コミュニティ運営協議会等と連携して地区や方法等を決定する。

施策目標③ 健康意識が高まり、新たにスポーツを始める人が増えている

「スポーツを行っている者の増加」と「スポーツを通じた健康づくりに関する相談支援件数の増加」を目標としており、取り組みとしては、エイコーウェルや健康課等と連携して、各地区の教室や健康無関心層をターゲットに、インボディ等による体の状態の見える化とその解説、改善方法の共有を行う。

市丸会長： 柱ごとに説明いただく。これまでの説明について、質問等はないか。

末永委員： 基本方針に「市民の心と身体の健康」とあるが、心の健康に関する取り組みはどこに含まれているか。どちらかというと身体の健康に着目した取り組みに見える。

上田係長： 身体を動かすことがメインになるため、心をメインにした取り組みはない。アウトリーチによる相談支援の中などで心の健康についても支援できればと考える。できるかどうかはまだ不明だが、心と身体のバランスは大切だと認識しているため、健康課等と連携して取り組んでいきたい。

市丸会長： 心と身体は一体のものではないかと思う。決まり文句のようなものとする。

西村委員： 施策目標③の取り組みの中に、「健康無関心層をターゲットに」とあるが、この評価は一緒に行うのか。この評価だと健康無関心層の反応があったかどうかは見えづらいと考える。健康無関心層へのアプローチも含めた評価と考えるのか。

上田係長： 評価は市民アンケートの数値の結果から評価する。その数値が改善したとしても、それが必ずしも健康無関心層の改善によるものとは言えないが、市民の運動する割合を増やしていくことが健康無関心層の減少に繋がると考えている。

西村委員： 地域の運動教室などは関心のある人が多いと思うが、無関心層をターゲットにする場合の場所として今考えているところはあるか。

吉丸係長： 来年度に向けた協議をこれから行っていく段階であるが、子ども家庭センターからのアイデアとして健診会場に出向いて実施する案が挙げられている。

西村委員： 他の市町村ではスーパーや商業施設などとの連携も行っているようである。

市丸会長： その他に質問等はないか。なければ次の項目の説明を事務局に願う。

上田係長：

【基本方針2 誰もがスポーツを楽しむことのできる環境づくり】

施策目標① 誰もが気軽にスポーツに取り組める（★◆）

「スポーツを行っている者の増加」と「スポーツを行っていない者の減少」を目標としており、取り組みとしては、スポーツ協会等と連携して、スポーツ体験事業についての方針等の決定と市内スポーツ教室の整理や情報の蓄積等の方法について決定していく。

施策目標② スポーツの体験→練習→仲間づくりができる（★）

「体験できる教室の設置」の目標に対しては、スポーツ協会等と連携して種目や方法等を決定していく。「スキルアップできる教室の設置」と「共通の目的を持った者が集って競い合う教室の設置」の目標に対しては、グローバルアリーナやスポーツ協会と連携して種目や方法等を決定していく。「団体加入率の増加」の目標に対しては、スポーツ協会等と連携して各種スポーツの体験の場を提供するとともに、興味を持った方を単位協会や民間スポーツ施設等へ繋いでいく。

施策目標③ スポーツを継続する人のために、その目標となる成果発表の場がある（★◆）

「成果発表の場の設置」を目標としており、グローバルアリーナ等と連携して種目や方法等を決定していく。

施策目標④ 市民のニーズに合ったプログラムを提供している（★◆）

「アンケートでニーズの多いプログラムの提供」を目標としており、こちらもグローバルアリーナ等と連携して種目や方法等を決定していきたい。

施策目標⑤ 障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむことができる

「スポーツや文化芸術活動等への参加率の増加」を目標としており、エイコーウェル等と連携して種目や方法等を決定していく。

施策目標⑥ スポーツの継続年数にかかわらず、スポーツを通じて楽しさや喜びを実感し続けることができる

「スキルや目的に合った教室の設置」と「上記教室の指導者の育成や確保」を目標としており、こちらもグローバルアリーナ等と連携して種目や方法等を決定していきたい。

施策目標⑦ スポーツを始めるきっかけとしてeスポーツの普及について研究している

エイコーウェル等と連携して研究方法等を決定していきたい。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

末永委員： 先ほども話に挙がったが、施策目標⑦の文言はこのままでいいのか。また、スポーツを行っている者の増加にはeスポーツを行っている人は入らないのか。

上田係長： 施策目標⑦の文言については、修正ができないためこのままとさせていただく。eスポーツについては、本計画でスポーツは身体活動を含むとしており、eスポーツが身体活動のきっかけになればと考えている。

大賀委員： 全体にもかかわることであるが、前計画ではスポーツサポートセンターが様々な場で活躍するというような言い回しが多くされていたが、本計画では全く出てこない。今後、スポーツサポートセンターはどうなるのか。

大塚課長： スポーツサポートセンターという名称は載せていないが、計画の「8. 推進体制」の中で、アクアドームから市民に向かう矢印の下に記載した役割がスポーツサポートセンターの取り組みである。この取り組みについては、エイコーウェルと連携しながら引き続き継続して実施していくため、スポーツサポートセンターの取り組みはこれまでと変わらず実施されていくと考えていただいてよい。ただ、スポーツサポートセンターという名称については、載せないという方向性で今回の計画を策定している。

大賀委員： スポーツサポートセンターがなくなり、これまでの機能はスポーツ協会などに吸収されるのではないかなどと考えていた。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

河野委員： 施策目標にスポーツが好きな子どもの増加として小学5年生と中学2年生の目標がそれぞれあるが、中学2年生の取り組みの中には「小学生や幼い時期から」という視点が入っているのに対して、小学5年生にはその視点がない。中学生と同様に小学生にもその視点が入ると良い。

上田係長： 修正させていただく。

末永委員： この種目の中にeスポーツは入っているか。

上田係長： 現在は入っていない。

末永委員： 入れることは考えているか。

上田係長： 現状、予定はない。eスポーツの研究を踏まえて考えていく。

市丸会長： その他に質問等はないか。なければ次の項目の説明を事務局に願います。

上田係長：

【基本方針4 スポーツ活動を支える基盤体制の整備】

施策目標① それぞれの取り組みにおいて適した指導者がいる（★）

こちらの目標については、「上記教室の指導者の育成や確保」としており、再掲となっている。

施策目標② 相談できる環境が整っており、市民がそれを知っている（★◆）

1つ目の目標は、「スポーツを通じた健康づくりに関する相談支援件数の増加」としており、こちらも再掲となる。2つ目の目標は、「上記の支援体制の市民の認知」としており、取り組みとしては、アウトリーチによる相談支援等の際に支援体制の周知を行っていく。また、スポーツサイトの在り方を含め、スポーツに関する様々な支援体制の情報発信についてスポーツ協会等と連携して方法等を決定していく。

施策目標③ 市民のスポーツできる場を確保している

「種目数の維持」の目標に対しては、各単位協会が充実した活動を行えるよう、補助金を交付するなどスポーツ協会を介して支援を行う。また、市民スポーツ活動の推進についてスポーツ協会と連携して種目や方法等を決定していく。「面数の維持」の目標に対しては、市民が市内スポーツ施設を安全に利用できるよう関係団体と連携して施設の適切な維持管理を行っていく。「稼働率の維持」の目標に対しては、市民が市内スポーツ施設を快適に利用できるよう関係団体と連携し

て施設の適切な維持管理を行う。また、施設を可能な限り多くの方に利用してもらえよう指定管理者と連携して、施設の予約管理を適切かつ円滑に行っていきたい。

施策目標④ 地域スポーツの課題が明らかになり、スポーツ推進委員と連携してそれらに取り組んでいる

「スポーツ推進委員の支援体制の維持」と「スポーツ推進委員との連携による地域課題解決事業の推進」を目標としており、取り組みとしては、各研修会の参加や地域の体力テストの指導、市民に対するスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導等を円滑に行えるよう、スポーツ推進委員事業に対し支援をしていく。

施策目標⑤ スポーツ施設に関する計画に基づく施設の集約・複合化や既存施設の有効活用等を着実に実行している

施設整備の方向性を令和7年度決定する予定であり、スポーツ施設については、基本的に既存施設を有効活用していく考えである。

施策目標⑥ 市民が施設にアクセスしやすくなる対策を研究している

令和7年度に施設整備の方向性が決定してからの研究となる。

施策目標⑦ 世代や地域を超えて交流できる場がある

「南の郷クラブの会員数の増加」を目標としており、取り組みとしては、南の郷クラブの定例会議やイベント等に関わり、必要な支援を行う。また、市広報紙やホームページを活用して、広報を行っていく。

施策目標⑧ 市民が市内でスポーツ観戦（トップスポーツ）をしている

「市内観戦者数の増加」を目標としており、取り組みとしては、市内で行われるスポーツ大会について情報収集を行い、HPやSNS等を活用し情報発信を行う。

施策目標⑨ スポーツ協会に「★」を推進する基盤体制が構築できるよう体制の整備に努める

多くの公共施設の管理事業を行っているスポーツ協会の体制について、将来、スポーツ協会がこれらの管理事業とスポーツの普及推進を目的とした事業を区分して取り組めるよう、本市のスポーツ推進の全体の体制について庁内で協議を行っていく。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

大賀委員： 施策目標⑨の取り組みについて、管理事業と普及推進を分けて取り組めるようにというのは、具体的にどのようなことか。

上田係長： これまでスポーツ協会との連携として、市民が施設を利用しやすいように施設の利用管理の集約化に取り組み、学校開放施設や有料公園を含むスポーツ施設の管理をスポーツ協会に担っていただいている。スポーツ協会はその施設の管理に追われている状況で、市民スポーツの推進を十分に行える体制が整っていない。そのため、施設の管理と市民スポーツの推進をそれ

それぞれ十分に組み入れる体制の強化に取り組んでいきたいと考えている。

末永委員： スポーツ協会との指定管理締結の際に、自主事業に取り組むこととされていたと思う。今の話では、そのような事業は他の組織に任せて、施設の管理をスポーツ協会にお願いするということに聞こえたが、自主事業の取り組みはなくなるという理解で良いか。

上田係長： 自主事業については、現在、単位協会やスポーツ協会で大会や教室等の事業を実施しているが、休息の確保等、労務管理が適切ではなく、さらに事業についてもなんとか実施しているような状況である。現状のままで十分なスポーツ推進活動ができず、裾野の拡大には繋がらないため、スポーツ人口も減少していくと考えられる。そのような状況を防ぐため、体制の強化に努めていく。

末永委員： よくわかった。別件で、施策目標②の2つ目の目標に対する目標値にアクアドームの認知度の項目があるが、アクアドームはユリックスとして認知されていることが多い。そのため、この目標値で大丈夫なのか気になるところである。

上田係長： 市民にアンケートを取る際には、わかりやすいよう工夫する必要があると考えている。「アクアドーム」ではなく、「宗像ユリックス・アクアドーム」というような表記の方法を考える。

末永委員： 目標値の76%は厳しいのではないかと感じる。

大塚課長： 昨年実施したアンケートの結果では、認知度は74.9%となっている。その際は「宗像ユリックス・アクアドーム」と表記していたため、今後のアンケートの際にもそのような工夫をしていく。

市丸会長： その他に質問等はないか。なければ次の項目の説明を事務局にお願いする。

上田係長：

【基本方針5 「伝わる」効果的な情報の発信】

施策目標① 市民が次のサービスを知っている ①施設で何ができるか ②施設の使い方やルール ③スポーツ用具の貸出制度（★）

「認知度の増加」を目標としており、取り組みとしては、市ホームページや情報発信（蓄積）サイトの見直し等について、方法等を決定していく。

施策目標② 毎年、市広報紙でスポーツの体験→教室（練習）→仲間づくり→成果発表の場（→観戦

(見学))を情報発信している

「情報発信の定着」を目標としており、取り組みとしては、スポーツの体験や教室、仲間づくり、成果発表、スポーツ観戦の場をホームページや SNS だけでなく、広報紙も活用しながら周知し、より多くの人に情報を届ける。

施策目標③ 「◆」の情報を発信している

「情報発信の定着」を目標としており、取り組みとしては、スポーツに関する情報発信の強化月間を設け、スポーツ施策に関する情報を市広報紙で発信していく。

施策目標④ 情報発信（蓄積）サイトが充実している

「サイトの認知度の増加」を目標としており、欲しい情報に簡単にたどり着け、継続的に活用しやすいサイトとなるよう情報発信（蓄積）サイトの基盤の整理に取り組んでいく。

施策目標⑤ 発信した情報が市民のもとへ確実に届いている

こちらは再掲のため、説明は省略する。

施策目標⑥ 宗像市のイベントが市外の人にも興味を持ってもらえている

「同一イベントの市外視聴率の増加」を目標としており、プリンセス駅伝の市外視聴率を上げるため、テレビ・SNS を活用した視聴者プレゼントの実施やチラシ等での大会 PR に取り組んでいく。

市丸会長：事務局の説明について、質問等はないか。

河野委員： 市民アンケートの結果において、市広報紙で情報を収集している人が 50%もいる（5-3-28 ページ）。しかし、目標値では、広報紙の掲載が年 1 回となっている。年 1 回しかできないのか、最低 1 回はするという考えなのか。また、ターゲットとして、無関心層を引き込みたいのか、それとも関心がある人にきちんと情報を届けたいのか、どちらに重点を置いているのか。その方向性をはっきりさせて取り組む必要があると考える。

上田係長： 基本的には市広報紙をベースに情報を発信していく。回数については、市全体との調整もあることから、年 1 回が限界である。そのため、その 1 回を強化月間として情報をまとめ、そこからそれぞれの HP に誘導し、併せて SNS 等での発信をしていきたいと考えている。

大塚課長： ちょうど来月の市広報紙 3 月号にスポーツ特集を組んでおり、表紙とその裏面を使って、健康づくりや運動の場の情報を発信している。そのようなものを年 1 回は発信できればと考えている。

河野委員： その 3 月号の中に、第 3 期スポーツ推進計画についての内容は載っているのか。

大塚課長： スポーツ推進計画という言葉は入っていない。

末永委員： スポーツ推進計画を策定したためその内容に沿って取り組んでいくというようなことは載せていいのではないかな。

河野委員： もしくは4月号の枠をもらって載せてもいいのではないかな。

大塚課長： 3月号については、アクアドームの特集が元々のテーマであったため、スポーツ推進計画に関する視点がなかった。今いただいた意見を踏まえて、令和7年度は、新たな計画の内容を含めた情報発信ができるよう検討していく。

末永委員： 市民の情報収集の方法として、HPやSNSは主体的であるのに対して、広報紙は受け身である。この違いを理解しておく必要がある。無関心層と関心層にはそれぞれどの方法が効果的かを考えないといけない。特に無関心層には、広報紙が効果的であると思われるため、ぜひお願いしたい。

大賀委員： 宗像市のLINEを登録している。色々な情報が流れてくるが、文化スポーツ課の情報は多いと感じる。どのくらいあるのか。

大塚課長： LINEには、市の教室から市長表敬まで様々な情報を発信している。市のLINE登録者はかなりの人数いる。

大賀委員： 自分の関心のある分野だからこそ感じるのかもしれないが、多くの情報が発信されていると感じている。そのようなものをうまく活用していけたらいいと思う。

市丸会長： その他に質問等はないか。なければ次の項目の説明を事務局にお願いする。

上田係長：

【基本方針6 “おなかつ”の地域資源を活用したスポーツ観光等の推進】

施策目標① 毎年、子どもたちに海に親しむ機会を提供している（◆）

「維持」を目標としており、5月から9月までの期間で、小学5年生を対象に、勝浦浜海洋スポーツセンターにて海洋性スポーツ体験授業の取り組みを実施していく。

施策目標② プリンセス駅伝が継続されるよう支援を行っている（◆）

「持続」を目標としており、方針としては、プリンセス駅伝が継続されるよう引き続き市民等と連携して大会運営のサポートを行っていく。

施策目標③ ホストタウン交流による子どもの異文化交流ができている（◆）

「持続」を目標としており、方針としては、ブルガリアフェスティバルにおいて来日するカザンラック民族舞踊団やサニックス Cup 国際新体操団体選手権で来日するブルガリア・レフスキー新体操クラブとのホストタウン交流等、市民交流を進めていく。

施策目標④ 世代ごとのラグビーを通じた交流やラグビーの試合、観戦の提供が行われるように支援を行っている（◆）

「持続」を目標としており、一般財団法人サニックススポーツ振興財団と連携して、子どもから大人まで世代ごとのラグビー交流事業の取り組みを実施する。また、市民にワールドラグビーユースの試合の案内を行う。

施策目標⑤ 市内の民間スポーツ施設等のスポーツ資源を有効に活用している

「活用数の増加」を目標としており、方針としては、セカンドスクールやむなかたキッズセブン等の事業をグローバルアリーナ等の施設を有効活用し効果的に実施していく。

市丸会長： 事務局の説明について、質問等はないか。

全体的な部分になるが、マーク（◆★）の意味があるとわかりやすい。

4 その他

市丸会長： 報告等はないか。

大塚課長： 配布させていただいたむなかたアカデミッククラブの冊子について簡単に説明させていただく。

吉丸係長： 3ページ以降をご覧いただきたい。部活動地域移行の簡単な説明が載っている。

宗像市立学校の部活動は、段階的に縮小され、令和9年8月末に廃止となる。今後は、学校部活動に代わり、地域が主体となる「地域クラブ」の中で子ども達は活動していくこととなる。この「地域クラブ」のひとつに市が主催するクラブがあり、11種目13クラブの運動部が活動している。この市主催の運動部種目を「むなかたアカデミッククラブ」といい、企画・運営は株式会社グローバルアリーナに委託し行っている。文化芸術関係については、現状、吹奏楽クラブのみとなっており、令和7年度より公益財団法人宗像ユリックスが実施する。こちらは別途、宗像ユリックスから案内する予定である。6ページ以降に各種目のクラブ紹介が載っている。この冊子を今週から、市内の小学6年生と中学1、2年生の全生徒に配布する。特徴的なこととして、6～10ページに掲載しているクラブについては、これまでの休日のみの活動に加えて平日も活動する完全なクラブチーム型となっている。中体連大会にもこのクラブで出場していく。このような完全なクラブチーム型のクラブを令和9年8月末の部活動廃止までには全種目で実施していきたいと考えている。また、バドミントンのように、地域移行によって、これまで部活動にはなか

った種目についても展開していきたいと考えている。卓球については、野口委員に指導者として携わっていただいております、引き続きお願いしたい。

今週から配布し、随時申し込みを受け付けていく。

大塚課長： 受皿の一つとしておなかつたアカデミッククラブがある。市としては、全部で 30 クラブの受皿クラブを起ち上げる方針であり、現在はアカデミッククラブ以外に自立型や教員、部活動と連携したクラブなどがある。しかし、それだけではまだ十分でないことから、令和 7 年度以降になるが、市スポーツ協会とも連携しながら子ども達のスポーツをする環境を整えていきたいと考えている。

大賀委員： 地域移行を推進する仕組みはどのようになっているのか。文化スポーツ課や教育委員会、グローバルアリーナなどの関係性がよくわからない。

大塚課長： 当初、令和 4 年度に国の事業に手を挙げたのは文化スポーツ課である。現在は、教育委員会が主となり、地域移行のスケジュールなどの方針を決定している。受皿の部分については、文化スポーツ課で環境を整えており、その中でグローバルアリーナとも連携を図っている。マンパワー不足によりスポーツ協会との連携等が不十分な状況があるが、教育委員会とは連携を取りながら進めている。

大賀委員： 令和 9 年度以降は文化スポーツ課が中心となるのか。

大塚課長： そのようにシフトされていくと思われる。ガイドラインに沿って活動されているかの把握や活動場所の割振りなどは文化スポーツ課で担う部分であり、段々とウエイトは大きくなっていく。役割分担上、主は教育委員会となっている。

大賀委員： 全て文化スポーツ課に任せられると相当な負担になると思われるため、そのようなことにはならないようにしないといけないと感じた。

大塚課長： おっしゃるとおり。そのように教育委員会が完全に手を放すことはないが、どうしてもウエイトは大きくなっていくため、人員の確保などを行い、推進していける体制を整える必要がある。

大賀委員： 国は地域展開という言葉に変えている。移すのではなく、地域に開いていくというイメージであり、学校とのかかわりも必ず出てくると思われる。

大塚課長： 中学生に関することであるため、教育委員会がかかわらないということにはならない。

市丸会長： 部活動が令和 9 年 8 月末に廃止になるのは決定事項か。

大塚課長： 教育委員会で決定している。

市丸会長： 誰が決めているのか。

河野委員： 宗像地区である福津と宗像の教育委員会、校長会、学校全体で協議されている。

大塚課長： ここまで打ち出しているところは全国的にも数少ない。

大賀委員： 福津市も同じ土俵に乗っているのか。

河野委員： 福津市は別のスタイルで進めている。宗像市はグローバルアリーナがありそこが中心となっているが、福津市にはない。それぞれできることが異なる。

市丸会長： 国からの強い要請があるのか。

大塚課長： そのようなことはない。ただ、国の実証事業の中で実施しているため、お金はもらっている。

市丸会長： 地域移行の発端は教員の負担軽減だと思うが、私の周りには部活動にかかわるために教員になった人が多くいる。完全に地域移行するとそのような人はどうなるのか心配に思う。特に体育教員はそのような人が多い。個人的には、部活動にかかわる教員に対して、土日の手当をだすなどの方法が望ましいと考える。

末永委員： 問題になっているのは、全くわからない種目の顧問を任されることである。どこが決めているか知らないが、その考え方にも問題があると思う。

市丸会長： 教員がもつものと地域クラブがもつもので選択できるようにすると良いと思う。

大塚課長： 教員で希望があれば、兼業兼職で地域クラブの指導者を担っていただいている。ただ、部活動としてではないため、満足できないと感じる教員もいるかもしれない。

末永委員： これまで部活動で使っていた場所はどうなるのか。

大塚課長： 地域クラブの活動に使われる。

末永委員： 各学校の同じ種目が集まって活動すると空く場所がでてくるのではないか。

大塚課長： 部活動のように他の種目が同じ場所を使うなどがなくなり、種目ごとで場所が異なる。土日の活動が中心となるため、十分な時間と場所が必要となり、自ずと場所は埋まる。

末永委員： 平日はどうなるか。

大塚課長： 運動場については照明の問題などがあるが、今後、平日 17 時から 19 時についても地域クラブに開放していくこととなっていく。

市丸会長： よくわかった。その他に報告等はないか。

河野委員： ウォーキングコースを知っている者の増加という施策目標がある。ホームページを見る限り、地島にはウォーキングコースがない。5 年後の目標値は推進地区で 20%となっており、その推進の取り組みとしてひとつ提案がある。今、小学 5 年生以上は、地域のために貢献するということを言われており、子ども達にもその力がある。青少年育成部会などが子ども達にボランティアを募集し、休日に一緒に地域を回ってウォーキングコースを作るという取り組みをしてはどうか。それがホームページに載ったり地域に回覧されることで、地域の人の目につき、地域の人も子ども達が作ったとなれば、より活用したり認知度が高まるのではないかと思う。それがモデル地区となり他の地域にも広がっていけば、お金をかけたチラシなどではなく、子ども達が作った身近なウォーキングコースとなり、いいのではないかと思った。任せてもらえることが子ども達にとっても自尊感情に繋がるため、教員としてぜひお願いしたい。

市丸会長： その他に報告等はないか。

上田係長： 現委員の任期が令和 7 年 5 月末までとなっている。それまでに審議会を開催する予定がないため、今回で現任期中での審議会は最後となる。委員の皆様には感謝申し上げます。また、市広報紙を通じて次の任期の市民公募を行っているため、併せて報告させていただく。

福本： 今お伝えしたように現任期中での審議会は最後となるため、各委員より一言ご挨拶をい

ただきたい。会長から時計回りをお願いする。

(各委員よりご挨拶)

大塚課長： 事務局を代表して一言挨拶申し上げる。

(課長あいさつ)

10 閉会

市丸会長： 以上をもって、第4回宗像市スポーツ推進審議会を閉会する。

令和7年 3 月21 日

署名

河野 和道

署名

石松 幸子